

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370300727		
法人名	社会福祉法人 仁和会		
事業所名	グループホーム聖心園		
所在地	熊本県人吉市南町8番地の1		
自己評価作成日	平成26年10月1日	評価結果市町村受理日	平成26年11月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成26年10月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方々が年々介護度が上がり 重度化になられておられるが 一人ひとりのできることを活かしながら お互いに助け合い 思いやりの心で生活をされていること 散歩や外出の機会がむずかしくなっているが普段の生活の中で庭先に出て花々を見たり自然の風や生活の音を楽しんで頂き 懐かしい歌を歌ったり思い出などを語り合える時間を大切にしていること。地域の方々との交流や家族のきずなを大切にしていること。母体施設と 協働しながら安心安全の暮らしを提供できること。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して10年という経年等により平均介護度3.5と重度化傾向にはあるが、ALDの低下に伴い浴槽改修等ハード面からの見直しや気づきノートを生かしながら、入居者を中心としたケアに努めている。地域の中で楽しみある日常に花壇の花を見たり、地域資源を生かした外出(お城や近隣の庭先、母体法人等)や、行事では入居者の出番の機会もあり、穏やかな日常にメリハリや自信回復として生かされている。法人として研修体制は構築し、各委員会活動等によりスキルアップを図り、管理者を中心とした強固なチームワークや健康管理の徹底、臥床中心でも人の気配等を感じてもらいたいとの工夫が「少しでも長くホームで過ごしたい」とする思いを実現しており、家族からも絶大な信頼を得ている。地域の中で暮らし続ける基盤は確立し、老人会やシルバーボランティア等の訪問者も多く、職員の帰宅時の挨拶「行ってきます。」や、入居者と職員とが労いあい、感謝のある生活等、温かい家庭的なホームが形成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	老人福祉法の理念に基づき利用者の生活支援に万全を期し万人は神の前にかげがえない存在であるという法人理念のもと地域密着型サービスの意義に沿った事業所理念を設定し実現に向けて取り組んでいる。	10年の時の流れの中で、母体と同じ理念であるが、どの部署であってもケア規範は同じであるとして法人理念を継続している。グループホーム独自に運営方針6項目や地域密着型として姿勢及び入居者の“らしさ”を視点とする援助目標を掲げ、一人ひとりの思い等を見極め全員が共有合いながら日々のケアにまい進している。また、部署援助目標を年間の反省とともに次年度の目標に繋ぎ、高齢化・重度化の中で楽しみのある日々となるよう全員が意識を高くして臨むホームである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会役員の方や地域の方々との交流を図った清掃活動に参加している。また老人会より施設見学があり顔見知りになり挨拶や交流がある。地域の幼稚園や小学校の運動会や敬老祝賀会にも招待され出席している。	地域の中での確固たる基盤が作られており、道行く地域の方々との歓談や登下校中の子どもたちと挨拶を交わしている。環境に日には町内掃除に参加したり、町内一斉消毒等地域の一員として参加している。また、幼稚園や小学校の運動会では入居者の手番も作られ、敬老祝賀会参加等世代を超えて多岐に亘った交流に努めている。老人会・シルバーボランティアや消防団の研修先として訪問者も多いホームである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員やボランティア、老人会の方々の研修の場として提供している。施設見学や入所希望者の方々が相談しやすい場を作り認知症の理解や支援方法など提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度定期的に会議を開催し活動状況、暮しぶりなどを報告している。また、会議の中で委員の方からの質問や意見等に対し、詳しく説明を行ったり日常生活の中でのサービスに活かしている。	地域に溶け込んだ施設運営を目的に定期的に開催する運営推進会議は、活動状況の詳細な報告をもとに双方向的な意見交換が行われている。防火に備え毎月開催している避難訓練への意見や良く訪問される家族から園児の姿が「園児たちにも立ち寄ってもらえれば」等の的確な意見が出されている。この会議を生かしたいとする姿勢や透明性のある体制が議事録に表出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会議のメンバーに、市の担当者の参加があり実情を伝えており、意見やお互いに情報交換を行っている。	行政との関係は構築し、研修案内や時節に応じた(インフルエンザやノロウイルス対策等)情報を生かし、毎回参加される運営推進会議の中で行政が把握した地域の高齢者問題等々の情報を共有している。市が行っている「介護用品支給事業」等の助成金情報等も家族の負担軽減に活かし、認定更新に向きながら情報交換を行う等協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の身体拘束をしないケアの実践に向けての全体研修に参加している。部署研修でも取り上げ各スタッフの報告書も読み拘束をしないケアの理解と実践を行っている。またスタッフが身体拘束委員会として法人の委員と共に情報を共有している。	法人全体での研修や、身体拘束廃止委員会での話し合い及びホーム内では資料を基に事例を検討しており、拘束の弊害を正しく認識している。管理者は「門扉は閉めてはいるが、心は開放している」として、“心通じあうケアで入居者一人ひとりの尊厳を大切にすることを心情に拘束・虐待の無いケアに取り組んでいる。また、入居者の帰宅願望に職員全員が交代で訴えを傾聴し、時には家族と話し合い、自宅への電話や家族との外出等心に寄り添いながら支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について事務所に掲示している。法人の全体研修や部署研修に積極的に参加し知識を深めている。また利用者やご家族には認知症の理解や無理の無い関係が築けるように情報提供を行ったり談話の機会をつくっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	部署研修において日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学んでいる。また必要性を関係者と話し合い活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用前に施設見学をしていただいている。ホーム内を見ていただき管理者は契約に関して不安や疑問点などを尋ね十分説明して理解して頂くようにしている。改定時は変更のお知らせを文章と口頭で説明し理解納得して頂けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に運営推進委員会のメンバーとして参加して頂いている。ご家族が意見や要望を言える関係づくりを心がけている。また苦情受付先の紹介を園内に掲示し紹介している。	家族の訪問時等気軽に意見や要望が出し易いよう、「いつでも何でもお話しください」と話しかけており、家族もフランクに要望等を出されている。法人一体となった行事(夏祭りや文化祭、クリスマス会等)には家族も参加され、特に入居者と一緒に歌を披露される等家族同士の関係も築かれている。また、運営推進会議も問題提起の場としてサービスに反映させ、ホーム内外の苦情相談や第三者委員の設置等を明示している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、全員出席の会議を利用し運営委員会の報告や運営に関する意見提案を聞いている。代表者や管理者は日常の談話の中で職員が意見や提案を行う事が出来るようにしている。	管理者は日々職員とのコミュニケーションを図り、母体法人の朝礼に毎日参加する等法人との連携しながらケア向上を図っている。また、入居者の状況を考えながらケアをすることとしての業務見直しや代表や施設等法人関係者も頻りにホームに足を運び、入居者や職員の現状を把握し、浴槽の改修等ハード面で環境整備等に努めている。又、多様な委員会活動も機能させ、職員に向けたアンケート等運営に反映させている。ホームでも運営毎月運営委員会により職員の意見や提案をもとに全員で精査しながらサービスに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入しており半期に一度目標設定、その確認、面接、評価を行い昇給、賞与に反映するシステムをとっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体として職員を育てる為の取り組みをしており園内研修、外部からの講師を依頼しての研修をはじめ外部研修への参加などや個人の実力にあった取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	人吉球磨グループホームの連絡会や球磨圏域介護支援専門員協会が開催する勉強会に参加してサービスの質の向上の質を高めていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に施設見学をしていただいている。ホーム内を見ていただき生活の様子を見ていただいている。御本人の気持ちを受け止め関わりを多く持ち安心できる暮らしが出来るように関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に施設を見ていただき生活の様子を見ていただいている。家族の気持ち不安要望が言える雰囲気づくりを行い思いをしっかりと受け止め柔軟な対応を心掛けている。具体的に不安解消に向けて一緒に考えていくことで信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申込み時の面談により今必要な支援を見極め他のサービス事業所も紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の一人一人のできることを見極めながらともに支え合い過ごされている。利用者一人一人がその時の状態を把握し負担にならずできることを本人が役割とされ毎日の生活の中で継続されており共に助け合いながら生活をされている。。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来て下さることが多くその際情報提供を行っている。家族との時間を大切にしている。夏祭り文化祭クリスマスの際にも家族の参加を呼びかけ文化祭では一緒にステージに立ち思いでをつくり家族の絆を大切にしながら共に本人を支えて行く関係を築いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	シスターが来園され声をかけて下さり一緒にお茶を飲まれたり歌をうたわれたりとのんびりに過ごされている。なじみの理容店の方が来園され本人の希望を聞き髪を切って頂いている。故郷めぐり外出の機会を多くし関係継続の支援を行っている。	家族・親類・シスター等馴染みの関係者の訪問や、かかりつけ医や家族による美容室の継続利用、理髪店の訪問継続等これまでの関係を継続している。。また、故郷めぐりとして立地条件を生かしながら市内めぐりを企画したり、お城祭りやおくんち祭り等昔から継承された行事を見学したり、初詣や彼岸参り等慣習を支援している。入居者と職員との関係が構築していることは入居者を心配される言葉に表れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の毎日の状態を職員が把握し 利用者のそばに職員が入り 話のきっかけを作ったり一緒に手作業をしながら利用者同士が関わり合い意思表示が困難な方にも職員が代弁し一人一人が孤立せず関わり合い支え合う支援に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者 家族の意向により契約を終了したケースについては今後の継続的な相談窓口となるのを伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前により本人の希望や意向を確認をしている。日々の生活の中で一人一人の思いや本人の希望や意向など会話の中から見出し実現できそうな事は検討し実施している。	日頃の入居者の言葉を大切にホームであり、会話から思いを把握し、時には家族に代弁し思いを実現させたり、意思疎通困難や臥床中心の中でも職員は話しかけ、うなずきや表情等により推察し、本人本位になるよう支援している。「仏さん参りをしたい」との意向を家族に伝えたことで家族の協力により実現される等できない事でも最大限努力したいとの思いを全員が共有しながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の御家族や事業所より情報提供をはじめとし面会者との談話の中や生活の中で話を聞いたり記録したりと情報を共有している。利用者の方々が喜びにあふれていた話題を話して頂けるような生活歴 馴染みの暮らし方などの把握に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェックや支援記録や日々の生活の中で利用者一人一人の心身状態を職員同士が情報の共有し有する力などの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の支援の中で利用者の気付きなどを共有し支援につなげている。モニタリングを行い御家族の意見や希望を聞き毎月行うケース検討会で意見やアイデアを出し合い介護計画を作成している。	職員は日々気づきを持ってケアにあたり、担当職員による気づきトートに他の職員も気にかかる案件を追記し、毎月問題点を持ち寄りケース検討会を行っている。また、ケアマネジャーは半年毎に家族や職員の意見をもとにモニタリングを行い、定期的には介護認定更新時、心身の変化等随時アセスメントを取り直し、新たなプランを作成している。家族の思いや職員の観察力が生かされ、高齢化・重度化した中にも和やかな生活を支援するためのプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には日中夜間での様子や支援経過気づきを記入している。毎月の資料として担当者が気づきシートの記入をし他の職員も気づきを記入してケア会議を行っている。記録による情報が共有され実践に活かされている。連絡帳にも必要なことは書き情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活の中で利用者の思いや言葉を受け止め御家族と情報交換を行いながら計画を立て実践できるように取り組んでいる。日々御家族との交流を図り連絡報告をすることで信頼関係を築き柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お城祭りやおくんち祭りなどなじみのあるお祭りの御家族にも呼び掛けている。近所の小学校の運動会では宝拾いに参加をし楽しまれた。巡回中のおまわりさんが声をかけて下さり大変喜ばれた。季節を感じていただく為に散歩やドライブを計画し豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は御家族の希望を大切にしながらかかりつけ医と連携を取っている。医師の病状説明は家族と共に聞くようにしている。遠方におられる家族はその都度電話にて報告し記録している。	入居者・家族の希望に沿ったかかりつけ医とし、現在内科に関しては全員が母体医療機関を受診し、専門医は家族の協力を得ながらの受診体制を取っている。職員は日常のバイタルチェックや必要時の再検に加え、変化を察知する観察力により主治医や法人看護師と連携しながら異常の早期発見に努めている。皮膚科の訪問診療や隣接の歯科医院等との連携など適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は 日々の関わりの中で身体の変化や気分の変化に気を配り職員間で情報を共有しバイタル測定や状態変化を本体の看護師へ報告をしている。利用者の状態の変化について早期発見早期対応に心がけて適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と連携を取りながら受信時より付き添い入院時は情報提供を行っている。入院中も面会や電話で行院関係者と情報交換を行い早期退院に向けて協働している・家族二意向や相談を含め連絡をとりあっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の段階で重度化した場合や終末期あり方を説明を行い同意を得ている。重度化の意思在り方について医師 家族 事業所で話し合いの場を持ち共有している。	「重度化した場合の対応による指針」に沿い、入居時に説明し大まかな希望を聞くと共に、状態変化時には個々に応じた対処方法を話し合っている。特養の申し込みや医療機関を希望される一方でできる限りホームでの希望もあり、職員は看取り研修で研鑽を積み、緊急時の対応方法や手順を共有しながら重度化されても住み慣れたホームでの生活継続に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部講習で蘇生の講習を受けた。緊急マニュアルをめにつくところに掲示している。部署研修でも取り上げ対応の訓練を定期的に行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回避難訓練を行っている。訓練時はベルを鳴らすため近所には電話をかけお知らせしている。年2回消防署の方に来て頂き消防設備の確認や避難訓練の様子を見ていただいている。消防署の自動通報装置も設置し消防署の立会の際は通報も行っている。災害時マップやマニュアルは目のつく所へ掲示している。	消防署立会いの総合訓練の他に、毎月夜間想定を中心に入居者も一緒に避難訓練を実施し記録に残している。又、管理者による防火管理点検も毎月行い、避難通路や電気機器・コンセント等を点検している。自然災害（地震など）については話し合いの機会を持ち、対応マニュアルを整備し防災マップを掲示しており、法人施設での備蓄が行われている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の保護プライバシーの保護について目のつく所に掲示している。園内研修や部署研修でも学び日々の言葉かけやプライバシーにも気をつけ尊厳の気持ちを持ち支援を行っている。	入居者を人生の大先輩として敬い一緒に生活出来る事に感謝しながらケアにあたっており、個々に合わせた呼称での呼びかけ、ノックや声かけでの入室、入居者目線での語りかけで接する職員の姿を確認する事が出来た。管理者は言葉遣いや笑顔の大切さを毎日のケアの中で指導しており、その思いが温かみのあるホームとなって表れている。又、個人情報の取り扱いには十分に注意を払い、広報への写真掲載についてもその都度了解を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で会話の中から一人一人の思いや希望を聞き取っている。また積極的に言葉掛けも行い希望を伺っている。思いをつたえやすいように信頼関係も築いて・自己表現できない方にも代弁することで笑顔で談話に参加している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人一人のペースがあるのを知っており大切にしている。天気の良い日は散歩の希望があれば散歩をしたり運動をしたいと希望されると一緒に歩行訓練を行い希望に沿って支援をおこなっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面台のブラシを置き利用者一人一人が乳液やクリームを持っておらえ洗顔後や入浴後鏡を見ながらつけられている。化粧をされたりエプロンをされたりとその人らしい身だしなみが出来るように支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に献立の紹介をしたり利用者の好みや力を活かしながら利用者の方がトレーを拭いたり職員と一緒に茶碗をあらったりしながら日々の利用者の状態を見ながら後片付けをしている	法人厨房で献立調理された食事が運ばれ、ホームではご飯を炊いたり注ぎ分けを行っている。行事食や祭りの郷土料理等が取り入れられ、入居者は茶碗拭き等出来る事に関わりを持っている。個々に合わせた食事形態(刻み・ミキサー等)の中、音楽を流し、職員の見守りによりゆっくりと落ち着いた食事のひと時を持ち、時には気分を変えて庭での食事を楽しんでいる。	カロリー計算された献立でホームでの調理やおやつ作り等もままならないようであるが家族の持ち込みや行事に参加した際にはたこやきや焼きそば等も楽しまれている。今後も食への関心や意欲が引き出せるよう、楽しみの為の工夫を引き続き検討頂きたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後の食事量を把握し職員で情報を共有し食事の声かけ支援を行っている。・水分も少量をこまめに飲んで頂いている。お茶も食前食後に声をかけ飲んで頂ける様に工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を職員は学んでおり朝の洗面時神垣や鶴飼義歯の手入れの支援も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の素振りを感じとったり排泄の訴えた等プライバシーを保ちながら支援をしている。紙パンツから布パンツへ変更されたりと利用者に状態のあわせ利用者の力を活かし支援をおこなっている。	自立された方へのさり気ない見守りや、区切りの時間やパターンの把握で様子を察しトイレに誘導している。誘導時は歩行訓練を兼ね手引き歩行で対応したり、昼夜で下着や排泄用品を使い分け、夜間時はポータブルトイレを利用する方もおられ自立に向けた排泄に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	少量の水分を名なども飲んで頂くように支援を行ったり牛乳をそのまま飲んで頂いている。ラジオ体操やみんなの体操等身体を動かし排便チェックを確認しながら支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人のペースに合わせて入浴を楽しめるようにしている。ご自分で手が届くところは洗っていただき手の届かない部分を洗っている。立位が困難な方は二人で支援し安全にゆっくりと入浴を楽しまれている。	入居者の希望に沿い個浴でゆっくりとした入浴を心掛け、介助時は何でも入居者の許可を得ながら支援しており、拒否に対しても無理強いをせず、家族との話し合いのもと次の日に支援したり清拭で対応している。浴室は改修され、機械浴の導入は更に安心して安全な入浴支援となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	20時頃までホールでテレビを見たりお茶を飲まれたりとゆっくりとスタッフと過ごされその後居室に戻られ休まれる。居室の温度調節や加湿への配慮、寝具の調整などに配慮している。また、利用者の排泄タイミングにも気をつけ安全に安心して休まれるように支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの説明書をいつも見れるように個人ケース記録にとじている。薬の変更時は連絡ノートや各個人の記録で伝達している。服薬については、各利用者の薬を朝、昼、夕のビニール袋に分けて入れ服薬前スタッフ2名で確認を行い服用支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	身体を動かすことが好きな方はスタッフと共に掃除をされたり、茶碗洗いなどを積極的にされている。またエレクトーンを弾かれたり、洗濯物干し、たたみ、テーブル拭きなどそれぞれの利用者の方々が御自分がすすんで役割を持たれ継続的にされておられる。天気の良い時は外に出て近所を散歩されたりと気分転換をはかられている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は戸外に出て散歩されたりと地域の方々との交流を楽しみにされている。また、日常会話の中で楽しみなことや希望などを把握し計画をたてて実施している。また、家族や地域の協力を得ながら一緒に過ごされ家族との絆も大切に支援を行っている。	重度化が進み全員での外出は難しい状況にあるものの、天気の良い日には庭での食事や花の手入れ等自然の中での暮らしを支援している。法人に出掛けたり、近隣の方の庭の菖蒲やつつじを見物させてもらう等近場の外出を支援している。地域の祭りや行事・季節毎の花見等は外出行事として計画しながら支援し、家族とのドライブや買い物、帰省等家族の協力も得ながら支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を所持されている方がおられ出張販売にて好きな物を買われたり外出時のお買い物もされたりとお金を使えるように支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から電話をかけたいと希望があれば職員が電話をかけ家族と話をされている。遠方におられる家族からの手紙を楽しみにされている。家族の面会に際も携帯電話にて遠方におられる家族とはなしをされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や洗面台 食堂 居室にも四季折々の花々を飾っている。庭にも職員の担当の花壇があり花々を植えるのを見ていただいたりベンチの座りながら四季折々の花々をたのしんでいたっているホールの大い窓からは木々の紅葉や日常のと様子が分かり話題になったりと居心地良く過ごせるように工夫している。	閑静な住宅地に溶け込むように落ち着いた佇まいのホームでは、庭の木々や花壇の花に季節の移ろいを見る事ができる。明るく開放感のあるリビングにはソファが置かれ、テーブルは入居者のその時の体調や相性によってレイアウトを変更している。廊下や洗面台等至る所に家族から頂いたり職員が持ち寄った花がさり気なく飾られ、清掃や手入れが行き届き経年を感じさせない居心地良い空間となっている。	職員のケアスピードも環境の一つとして捉え、リビングでのゆっくりとした時間が持たれている。今後も職員の廊下移動時等にもあわただしさの無いケアの徹底に期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は利用者同士の関係を考えながら設置している。また利用者の状態の変化や安全に配慮を行い設置している・テレビの前にソファを置き寒くなるとこたつを置きゆっくり過ごせるように配置している。好きな場所でゆっくりと過ごして頂ける様に居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時より家族本人と相談しながら馴染みのあるタンスや使い慣れた品物を持ってきていただき本人が居心地良く過ごして頂ける様に工夫している。また利用者の状態の変化に合わせて居室内の配置を工夫している。	入居時に使い慣れた品物の持ち込みを説明し、テレビやタンス・仏壇・ラジカセ等の品物が持ち込まれている。自分で縫ったエプロンを置き、鏡台に向って身支度を整えられる等在宅での延長の生活等、其々に手作り感のある居室である。布団での生活や、ベッドの位置や方向も本人に合わせて臥床中心の生活でも、扉の開放により人や音の気配を感じるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室廊下トイレなどは手摺があり床はバリアフリーとなっている。各居室はかなの名前と利用者の名前が明記している。トイレも居室企画にあり使いやすきものとなっている。利用者一人一人の状態に合わせて安全で自立した生活が送れるように設置場所にも工夫している。		